

第2回 BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～ 運営委員会（報告）

令和3年 12月6日（月）15:00～17:00

オンライン会議システム zoom

1. 開会（15:00）

2. 議題（15:05）

- ・中間報告
- ・今後の計画

最近のフィリピンからの入国状況について

・新型コロナウイルスによる入国制限が11月半ばには一旦解除になったが、その後オミクロン株の流行によって、11月末に外国人の入国は突如全面停止となった。現在は定住者や就労ビザであっても在外公館で発行される審査済証が必要。入国停止の措置が解除されるのは早くても2022年1月末か2月ごろとみられる。厳しい規制をクリアして入国できても様々な措置や手続きがあり、簡単に行き来ができない状況。フィリピン人の子供の呼び寄せにも大きく関わることであり、来年度の教室の生徒募集にも関係するかもしれない。問い合わせも多くなると思われるので、情報に注視してほしい。（村松正利）

・最近フィリピン人の50代夫婦から、今後迎える日本での老後や介護に関する意識について話を聞く機会があった。彼らが「フィリピンナガイサ（以下、FN）はとても大事。相談する場として必要な存在。自分たちも子供世代も共にFNを通して生活に必要な情報を得てきたからである」と強く言っていた。そのような意見を聞き、FNが在住フィリピン人にとってホッとできる安心する場になっていることを確信した。今後も今までの活動を継続して行ってほしい。（村松正利）

・このところ小学校高学年、中学校の年齢で、日本語ゼロで入ってくる子供のケースが続いている。フィリピンからの子供について、何か事前に情報があれば随時共有してほしい。特に中3で来日すると本人も学校側も苦勞が大きい。教育支援をどうしたらよいか悩むところである。（澤田）

・2023年4月に三島市、磐田市での夜間中学校の設置が決まった。学齢期超の若者を含め外国籍の子供の教育の受け皿ともなりうる。（高貝）

教材について

・「つなひろ」をバヤニハンの教室で使った。ロールプレイのビデオが分かりやすい。また字幕

が日本語のローマ字表記や英語訳など選択出来て、使いやすい、分かりやすいという声が学習者から多くあがった。(鈴木エバ)

就労、商工会議所との連携について

・1回目の運営委員会を踏まえて、FNの教室成果物を浜北商工会のコワーキングスペース「イトリエ」に展示したいと申し出ている。フィリピンコミュニティの存在を広く知ってもらおうということを目指している。浜北区のフィリピン人人口は市場を左右するような大きな規模ではないが、例えば持ち家購入や携帯電話契約など高額、長期の消費活動があり、住宅メーカーとの連携なども始まっている。そういった地域の一員としてのフィリピンコミュニティというものを押し広げる手立てをいつも探している。(半場)

・浜北区に住むフィリピン人が浜北で職を見つけられればと思い、浜北商工会議所様との連携に動いたが、実際やってみて浜北の企業のニーズとの間に少し食い違いが見えてきている。そこで地域の活力になりうるフィリピンコミュニティのあり方として「消費者」という切り口をまずは考えている。消費者としてのフィリピンコミュニティに興味のある企業とのマッチングなどは引き続き商工会議所様とも取り組んでいきたい。(松本)

・二つ感じていることを申し上げる。一つは交流の場を作るということがやはり大事だということ。昨年松本さんのご尽力で浜名高校定時制の生徒に、浜北の事業所紹介をさせていただき、企業からは大変ありがたいと好評であった。大人向けにも企業訪問、事業所訪問ツアーなどが企画できないか。ところで先日ある若い女性から「浜北にはケーキ屋さんが多い」という話を聞いた。例えばフィリピンの若者とお菓子を通じたコラボや文化発信はどうだろう。FNのつてでそういう人的交流の感性がありそうなフィリピンの若者がいれば、ぜひ紹介してほしい。企業が抱えている人手不足の単なる穴埋めとしての就労ではなく、コミュニティの中で必要とされる人材との出会いにつながればと思う。二つ目は「FNが相談する場所である」ということについて。浜北にもフィリピンからの技能実習生が多い。働くフィリピン人が相談する場所としては組合や派遣会社などがあるが、生活者としての相談や悩みの駆け込み場所としてFNに浜北でもっと関わってほしい。(村松辰芳)

・昨年末から日本の企業5,000社に「外国人労働者にどのくらいの日本語力を求めるか」というアンケートを実施し、2,000社から回答を得た。その結果、外国人労働者を雇ったことのない企業ほど高い日本語力を求めるという傾向が明らかだった。雇った経験のある会社の工夫については、日本語教室や地域のコミュニティに参加させる、マニュアルは必ず多言語化、朝礼で外国語の挨拶を使う、日本人社員への理解を深める教育を施すなどがあった。インドネシアからの技人国ビザでの就労マッチングで感じた疑問であるが、企業が外国人に求める日本語力は本当に妥当なものだろうか。日本語力がそれほどなくてもうまくコミュニケーションが取れている例はたくさんある。どういう日本語力が必要なのか、日本企業側に啓発を促していかなければと思うことがある。近い将来、定住外国人、技能実習生、特定技能、高度人材などいろいろな枠の外国人同士が仕事を取り合う、または外国人同士で資格によって待遇が違い上司部下となるような事態も考えられる。学歴だけが大切なわけではないが、長い目で定住外国人2世3世のキャリアを考えていかなければと考えている。FNも職業訓練事業をしているが、日本企業内で急速に進むデジ

タル化、ICT の動きに対応していくというのも就労訓練の大きなポイントになると思う。(前嶋)

その他

・浜松市の全面協力がなければ FN はここまで来られなかったと思っている。昨年浜北教室から駅南教室へとうまく橋渡しができて高校進学にまでつながったという事例があったが、これも浜松市と FN の連携による好事例のうちの一つである。(半場)

・日本語教育を巡る施策が大きく変わる中で、FN は見事にキャッチアップしている。日本語が多文化共生社会のインフラであるということは明確になってきている。企業の側もそうした認識を持つことが必要になってきており、また外国人労働者の日本語教育についての責任の所在を企業に求める動きも加速している。浜松市は外国人材を地域の中で活用している事業所を認定する取組みを 10 月から進めている。浜北商工会議所様の話にもあったが、外国人材を、人手不足をただ埋めるために利用するのではなく文化的なルーツに着目して地域の活力に生かしていきたい。外国人学校における日本語教育については、母語なのか継承語なのか現地語なのかという点で揺れがある。日本語教育に関する国の施策は大きく変わってきている。外国人に求める日本語能力として、ここ 10 数年は JLPT の N5,N4 レベルを行政や NPO が担ってきたが、CEFAR を含めた日本語の参照枠を見るといろいろな変化が見られ、これからの 10 年を見据えた浜松の政策を打ち立てていくべき時に来ていると思われる。単に日本語を教えるだけの日本語教室ではなく、FN のようにコミュニティ自体を支え信頼関係の上で言語も教授するということの大切さを感じている。一層の NPO や市民団体の活躍がのぞまれる。(鈴木)

・明治大学の山脇ゼミと「やさしい日本語ラップ やさしいせかい」というものを作り、YouTube で公開しているので紹介させていただく。字幕は 19 言語展開しているが、これらの字幕はラップの歌詞をいったんやさしい日本語にしてそれを各国語に自動翻訳したものであり、やさしい日本語の正確さ、分かりやすさがよく伝わるものとなっている。(吉開)

プログラム C について今後のスケジュール

・FN は日本語教室を入り口にして、いろいろな活動をしてきた。最近ではフィリピン人だけでなく日本人からの相談も多くなった。FN で拾い上げたことを他へ橋渡ししていく、ということがこの団体の専門性だと思う。こういう視点は他の団体ではあまり見られないことだと感じている。このような専門性を生かして、来年度プログラム C でライフキャリアを見通した活動をしていきたいと思っている。(半場)

・まだ募集告知は来ていないが、例年だと 12 月中旬に募集開始 1 月末ごろまでに提出。来年度は教材作成を行わないつもりである。代わりに今予定しているのが、例えば浜北区の幼稚園での調査。小学校就学以前の外国籍の子供へのサポートはまだ手が付けられていない分野であり、幼稚園から外国籍園児への対応に苦慮しているという相談が寄せられている。また、一族で来日した中で、中学を卒業したが高校へ進学できなかった年上の兄姉が弟妹の面倒を見ているというケースもある。こういった調査が新しい取り組みになりそうだ。(半場)

補足

・ライフキャリアを見通した活動ということに関して。長く働いてきたにもかかわらず直接雇用でなかったために退職金が出ず、定年後になって生活に困窮しているという相談をうけたことがある。また技人国資格で入ってきて実際には単純労働だったという事例も聞いた。将来を見据えた正しい会社選びといった啓蒙も大事だと思う。(村松正利)

・つなひろを使ったワークについて、学習者を日本社会に出していくことができるのであればなんでも柔軟に取り組んでいきたいと思っている。ケーキ屋さんというアイデアなどは楽しそうだと感じた。フィリピンの方々の手先の器用さ、色のセンス、発想の豊かさなど、普段感じている。日本社会との接点づくりと日本での生活に必要な知識、日本語という両輪でこれからも取り組んで参りたいと思っている。(半場)

3. その他 (16:40)

4. 閉会 (16:50)